

2014年7月実績概要（メモ）

（2014. 8. 21）

1. 生産動向

イ) エチレン 553,400トン

前月比 +14.5%（+70,100トン）
前年同月比 + 2.1%（+11,300トン）

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+13.1%	+ 2.1%
能力増減	+0.7%	▲ 5.5%
稼働率変動	▲ 2.6%	+ 5.5%
生産増減率	+14.5%	+ 2.1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.0%→当月 91.0%←前年同月86.7%

定修プラント：前月 3社3プラント→ 当月 1社1プラント←前年同月 2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加と前月に集中した定修もほぼ終了したことから、LD、PP、PS、塩ビ樹脂、EO、EG、キシレンなどの12品目でプラスとなった。HD、SBR、BR、トルエンなどの5品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PS、塩ビ樹脂、トルエンなどの8品目がプラス。PP、SM、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加と定修規模の減少等からLD、PP、PSはプラス、HDは稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模差と稼働率要因からLD、HD、PSはプラス、PPは定修規模差等からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、前月は定修が集中したこともあり国内出荷も総じて低位であった。このため当月はLD、PP、PSでプラス、HDは前月並みとなった。

前年比は、ポリエチレンはフィルム分野における輸入品増加の影響もありマイナスが継続している。出荷全体ではLDは前年比微増にとどまり、HDはマイナスとなった。PPはフィルム分野の出荷増加等からプラス、PSはFS分野等の出荷の増加からプラスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内の需要に関しては依然として改善は見られていない。当月は前月比、前年比ともHD、PSでプラス、LD、PPはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、HD、PPで減少し、LD、PSは増加した。在庫率(季節調整済)ではLDは上昇、HD、PP、PSはいずれも低下した。在庫水準としては、LDは高め、HD、PP、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LD	+21,400	3.5	3.6
HD	▲ 8,200	2.6	2.5
PP	▲33,300	2.9	2.6
PS	+ 1,200	1.3	1.0

以 上